

学びのサイクル通信

「学びのふりかえり」に取り組んでいるけれど、授業への生かし方がいまひとつわからないのです・・・。



先生方の授業づくりを応援します！

「学びのふりかえり」を使ってできる、ちょっとした授業改善のヒントをお届けします。児童に、考える力・記述の力を付けるための授業づくりと一緒に考えていきましょう。

P

授業の計画

単元に入る前に評価問題を確認します。自分のクラスの児童なら、どのように解答するだろう…と想像してください。そして、解説資料を読み、求められている力を付けさせるための単元計画を立てます。

Pを大切にしてください。
授業改善の始まりです。



D

授業の実施

考える力、記述の力を高める手立てを考えます。

C

評価問題の実施

採点・入力をして、県の状況と比較し、実態を把握します。

A

授業の改善へ

授業改善の視点を持ち、今後の授業に生かします。

教科書の〇〇ページの課題で、自分の考えを書いたり、友達の考えを共有したりする時間をしっかりとります。板書に大切な考えを表すようにしましょう。

今回は、第4学年・算数「小数のかけ算とわり算」（教科書東京書籍下71～72ページ）の課題を扱った授業計画例を紹介します。先生方の1時間の授業づくりの参考にしてください。

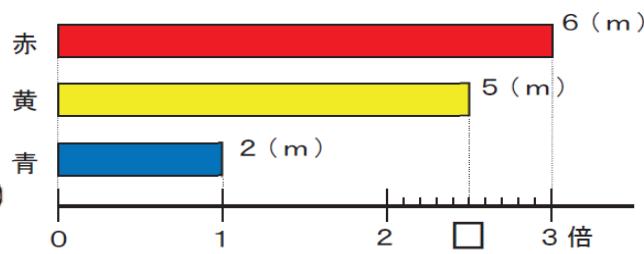
単元末評価問題

テープが3本あります。赤色のテープは6 m、黄色のテープは5 m、青色のテープは2 mです。

まさるさんは、青色のテープをもとにしたとき、赤色のテープは何倍かを調べ、そのことを次のように説明しています。

— まさるさんの説明 —

青色のテープをもとにすると、赤色のテープは3倍です。3倍というのは、2 mを1とみたとき、6 mが3にあたることを表しています。



◎ 青色のテープをもとにすると、黄色のテープは2.5倍になります。

まさるさんの説明をもとにして、2.5倍の意味について、「2.5倍というのは」に続くように、言葉や数を使って説明しましょう。

また、黄色のテープをもとにすると、赤色のテープは何倍になるかを求める式を書きましょう。答えは求めなくてもよいです。

2.5倍というのは、

(正答例) 2 (m) を1とみたとき、5 (m) が2.5にあたることを表しています。

式

$$6 \div 5$$

・ 来年度からは第4学年の本単元において小数倍（ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知る）の指導内容が充実します。

・ この問題のように、テープ図と数直線を利用しながら、基にする量と比べる量との関係を捉える活動を取り入れましょう。

・ 「1とみる」や「～にあたる」という表現については、「わり算のしかたを考えよう」（教科書・上52～54ページ）で既に扱っている表現ですが、繰り返し触れていくことが大切です。

解説資料でポイントを確認します

この問題では、「まさるさんの説明をもとにして2.5倍の意味について説明すること」が求められています。ここには、2つのポイントがあります。

1つめのポイントは、「青色のテープの長さを1とみること」です。

2つめのポイントは、「黄色のテープの長さが2.5にあたること」です。

まさるさんの説明を解釈し、「倍」の意味について、基にする量と比べる量を意識して記述できるようにすることが求められます。



これらのポイントが授業中に表れるようにするためには、
どんなことに疑問をもたせて、どんな既習事項と結び付けますか？

第4学年・算数「小数のかけ算とわり算」の実践例

導入で、「小数」に着目して、「整数」の場合と対比させることで、相違点を意識させようとしています。

だいたいの大きさを予想させることも大切な活動です。

長さ
月 20m
火 40m
水 60m
木 50m
金 30m

整数の倍って？
3倍ある Aくん
3つ分ある Bくん

◎月曜日の記録の何倍？
これを1とみる!! (火)は何倍？
40m (式) $40 \div 20 = 2$

(木)は、(月)の何倍ですか？ (予想) だいたい 2倍より大きい、3倍いかない
(式) $50 \div 20 = 2.5$

2.5
2と3の間中
2と半分

小数の倍
20と20と10
1倍 1倍 半分

中心になる問い(めあて)が、授業の後半に出てきた授業です。

どういふ意味かな？
(月)の20mを1とみたとき、(木)の50mが2.5にあたる

クジラの長さ
親は5にあたる
子

簡単な図を用いながら、1学期に学習した「倍の計算」を想起させ、学習に連続性をもたせています。

倍を表す数が小数になる初めての場面です。「2.5倍とは、どんなことを意味しているのか。」を問い、数直線の2倍と3倍の間を10等分することで、「小数の倍」が表す意味に着目させています。「×小数」の学習は、第5学年で扱う内容ですが、こういった見方を少しずつ見せていくことで、割合の見方につながる学習になります。

予想される児童の解答

2.5倍というのは、

✓ 青色のテープの2、5こ分。

2倍は2個分、3倍は3個分というような同数累加の意味付けで表現していると見取ることができます。「倍」の意味を「基にする量を1としたとき幾つにあたるか」という意味で理解させていく必要があります。

「まさるさんの説明を基にすると、2.5倍の場合はどのように表せるかな」と問い返し、表現を洗練させることも大切です。

2.5倍というのは、

2を1とみたとき、5が2.5にあたることを表しています。

式 ✓ $5 \div 6$

「どちらを基にしているのか」を捉えさせ、基にしているものでわかることで「倍」を求めることができることを理解させていく必要があります。